



# 総合質管理(TQM)部ニュース

2026年2月号(第31号)



今月は、緩和ケア課とがん化学療法課です。

## 緩和ケア課

### ～あなたならどうしますか？～ (スピリチュアルケア編)

がん終末期の患者さんが、「このままでは、生きている意味がない。早く楽にしてほしい。眠らせて。あなたは何もしてくれない」と、訴えてきました。この患者さんにどのように接します？

Aさんは自分らしさが失われ、生命が脅かされる危機に直面し、スピリチュアルペインを抱えているようです。

この方のように、受け入れがたい事実と向き合い、苦悩することは、葛藤を整理し、状況を受け入れるために必要なプロセスです。苦悩の表出やそれを妨げない環境を作ることが重要です。解決策を見いだせない状況であっても、患者さんの語りに耳を傾けることが、助けとなる場合もあります。

#### 例えば、このように会話を進めてみましょう。

- ①患者さんは「これが辛いんだな」と理解できたと感じるまで聴く  
「そのように言われるのは、何か理由があるのですか？」
- ②自分が理解したことを、患者さんに投げかけてみる  
「〇〇が辛いからそう言われるのですね？」

◎患者さんのスピリチュアルペインに向き合うと、医療者の中に罪悪感や無力感が生じることがありますが、必ずしも医療者の対応が悪いわけではありません。患者さんの感情が絶望感や怒りに満たされて、そのように発してしまうのです。そのような場合のケア目標は「患者さんが満足すること」ではなく、「最後まで出来るケアを提供すること」です。

◎すべての患者さんが、医療者に葛藤を表出したいわけではないので、無理に聞き出す必要はありません。いつでも話を聞きますよという姿勢を示しつつ、語りの表出がある場合は、しっかりと聴きましょう。

## スピリチュアルケアは「Doing (何かをすること)」ではなく、「Being (そばにいること)」です。

(文責) 緩和ケア認定看護師 新川 恵美

## がん化学療法課 当院で一番行われている化学療法 m-FOLFOX6 療法について紹介します

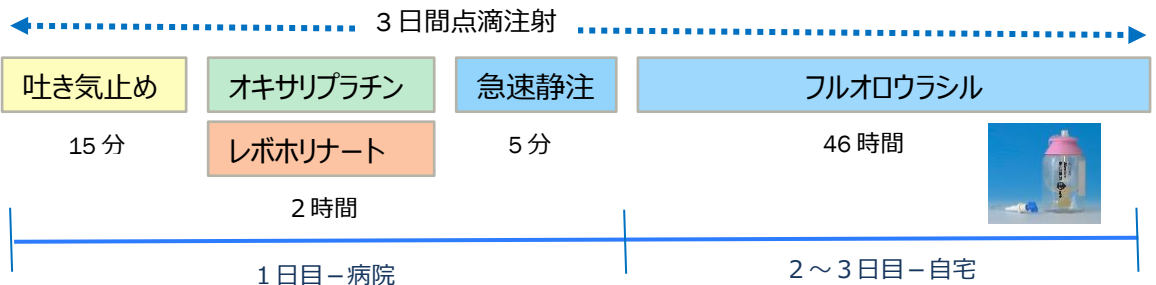
### ● m-FOLFOX6 療法とは

オキサリプラチン®、フルオロウラシル®、抗がん薬の作用補助剤のレボホリナート®の3つの薬剤を組み合わせた治療法です。

大腸がん治療の標準的な化学療法法のレジメンの一つで、術後補助化学療法、進行・再発大腸がんの一次治療に用いられます。

1日目に3種類を点滴し、フルオロウラシル®は、**携帯型ポンプ**を使用し3日目まで持続点滴します。これを2週間毎に繰り返します。

### ● 投与方法



1日目外来化学療法室にて3~4時間点滴し、「インフューザーポンプ」という小型携帯用ポンプを装着し、**ポンプを持ち帰ってもらい**46時間フルオロウラシルを持続投与します。ポンプが終了したら、自己抜針ができる方は自宅で抜いてもらい、できない方は外来で針を抜きます。当院では全例、外来化学療法で行っています。次回は、インフューザーポンプ管理、セルフケア指導について掲載します。

(文責) がん化学療法看護認定看護師 佐藤 絵美